健康へのメッセージ

シリーズ(124)

大腸の病気(I)

東陽病院　院長　伊藤　文憲

光町のみなさんこんにちは。今回は大腸のお話です。大腸は前回の小腸に続く管腔臓器です。小腸の最後である回腸と大腸の最初の盲腸との間には回盲弁（バウヒン弁）があり、大腸の内容物が逆流しないようになっています。盲腸の端には虫が垂れたと表現される虫垂があります。炎症を起こすと急性虫垂炎となり悪化すれば外科的切除となりますが、最近では早期に抗生物質の治療が行われて手術は減っています。

盲腸から上方に上行結腸、横行結腸、下行結腸、S状結腸と続き、腹部に逆U字形になっています。最後は直腸を経て、肛門に至ります。長さ約1・6～1・7mです。

大腸の役割は、水分の再吸収と便のスムーズな排出です。前者がうまくいかないと下痢を起こし、後者がよくないと便秘や腹痛が起こります。いずれも毎日の生活に直結し、不規則になると体調が悪くなります。

大腸の病気には大きく分けると細菌による感染症、原因不明の炎症性腸疾患、ポリープや悪性腫瘍などの腫瘍性病変と腹部の手術や放射線治療などに続く癒着等の合併症による病気があります。

腸管の感染症は、衛生状態の悪い時代には流行し、多数の命が失われています。コレラ、赤痢、腸チフス等の急性感染症です。今でも海外旅行などにより感染する機会がありますので生ものには要注意です。慢性の感染症としては昔は大腸結核がありましたが、現在では稀です。最近の腸管感染症ではO―157に代表される病原性大腸菌感染症が有名です。腎障害により死亡例の報告もなされています。夏場の食中毒の原因としては腸炎ビブリオによる感染が時々見られます。臨床症状と便の細菌培養検査により診断され、脱水に対する十分な輸液と適切な抗生物質の投与により完治します。

原因不明の炎症性腸疾患には潰瘍性大腸炎とクローン病があります。これらについては次回以降に述べます。いずれも難病として認定され、治療に難渋する疾患です。

ポリープや癌などについては次回に述べます。診断法の進歩や内視鏡的治療の進歩により早期発見と治療が可能となっています。

腹部の外科手術後や子宮癌の治療として放射線治療を受けた後に腸管同士の癒着が起こることがあります。局所の炎症などにより通過障害が強くなると腸管内容物が停滞し、腸閉塞（イレウス）状態となり、緊急の減圧処置が必要となります。治療法として口から長い管を食道、胃、十二指腸を経て小腸内に留置し減圧すると改善します。それでも効果がない時には開腹して癒着を剥離する事が必要となる場合もあります。

※東陽病院の休日当番日
4月11日(日)　午前8時30分～午後6時
医師2名が待機・来院の際は電話を ☎(84)1335

こどもの日映画会
『ハリー・ポッターと秘密の部屋』

ほんの森
＝町立図書館＝
☎(84)3311

日　時　5月5日(祝)
午前10時・午後2時の
2回上映

定　員　各回120名

入　場　整理券（無料）を4月17日(土)から図書館カウンターで配布します。
（※整理券はお一人様5枚まで）

おはなし会

◎毎週土曜日午後2時から（30分程度）
◎幼児・小学校低学年対象
素話、絵本の読み聞かせ、手遊びなどを行っています。お気軽にお越しください。

休館日　4月5日(月)、6日(火)、12日(月)、19日(月)、26日(月)、5月3日(月)